

## ③【2012年1月 市民文教委員会資料】で示した必要炉数

2040年 ピーク火葬数	稼働日	火葬集中係数	集中日1炉当たりの 平均火葬数	必要炉数
【 10,083	÷ 300	× 1.72	】 ÷ 2.5	= 24

変更理由の説明なし

※下記⑦に基づくと「2.5」が実態ではないか。

## ④【2017年「岡山市新斎場整備事業基本構想」で示した必要炉数

【 10,083	÷ 300	× 1.66	】 ÷ 2	= 28
----------	-------	--------	-------	------

市の想定	2040年ピーク	東山	北斎場	西大寺
火葬件数 (市外含む)	10,083	5,060	4,095	928
炉数	28	14	12	2

実際には1,000件のズレ

## ⑤【2021年度 火葬実績】

実績	2021年実績	東山	北斎場 (12月から稼働)	西大寺
火葬件数 (市外含む)	7,947	6,016	584	1,347 ※岡山市民:776
炉数	28	14	12	2

## ⑥既設の26炉で十分ではないか。

提案	2040年ピーク	東山	北斎場	瀬戸内市斎場
火葬件数	9,631 (岡山市が修正)	約6000	約4000	利用した市民に 市外補助
炉数	26	14	12	

## ⑦【火葬集中日の1炉当たりの平均火葬件数についてのマニュアル紹介】

近年の計画では、1.0～3.0（件/日・基）の範囲で設定されることが多くなっているが、地域の葬送習慣の実状を考慮した**集中日の火葬タイムテーブル**を作成し、1基1日当たりの平均火葬数設定することが望ましい。【参考】として「岡山市新斎場整備事業基本構想」より抜粋